

1 本年度の重点教育目標

自分のめあてをもち ねばり強く取り組み振り返る

2 本年度の取組の重点

- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
- ・学習計画の立て方や学び方を含めた家庭学習の推進
- ・児童理解に基づき、自発的・自律的な態度を育む生徒指導
- ・一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育体制の充実

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
① 確かな学力を育む教育の推進	・各種調査の結果による客観的なデータなどから学力面の伸びは見られたか。	A	・当初目標はほぼ達成した。今後はさらに学力定着のため、家庭や中学校との連携を深めたい。	A	A	教育の質の維持・向上をしながら、教職員の負担軽減を図ってほしい。
	・学習指導要領による学習指導の改善が進み、ICTの活用も図り、成果を上げているか。	A	・児童用の端末の日常利用と授業改善は、進められているが、より一層研究を進めていく必要がある。	A	A	
② 豊かな心を育む教育の推進	・道徳科の指導を中心に全教育活動を通じて道徳性を培い、道徳教育の目指す子供像に迫ることができたか。	B	・日常では他者とのかかわりには優しさや思いやりが見られる部分があるので、心のこもった挨拶ができるよう引き続き取り組む。	A	A	価値観の多様化の中、よいことと悪いことの区別が的確にできるような指導の機会を増やしてほしい。
	・いじめや不登校等への対応は適切で効果を上げているか。	A	・不登校やいじめ、差別、偏見が生まれないよう支持的な風土を広めていく。	A	A	
③ 健やかな体を育む教育の推進	・体育科の指導、保健指導、食育指導等の改善と充実により、児童の心身の健康と体力の向上が図られたか。	B	・コロナ禍での取組となった。児童が自ら考え、判断する授業を確立し、自らの健康は自らで守るという意識を高めたい。	A	B	「ウィズコロナ」として、コロナを正しく恐れながら、健康・体力の向上や望ましい生活習慣の育成に向けて社会と連携して取り組んでほしい。
	・児童の望ましい生活習慣を家庭や地域と協力して確立することができたか。	B	・生活リズムが悪化している状況がみられるため、ゲームやメディアとの付き合い方の指導をさらに重視する。	B	B	
④ 学校における指導体制等の充実	・学校における業務改善に向けた取組を進めることができたか	A	・学校運営委員会や校務支援システム等を活用し、会議の効率化が図られた。	A	A	
	・質の高い教育を保障する学校づくりのためのPDCAのマネジメントサイクルによる学校改善が進められたか。	B	・迅速に評価を行い、課題を明確にするために、RPDCAサイクルの確立を図っていく。	A	A	
⑤ 家庭・地域と連携・協働した教育活動の充実	・児童の育ちについて、家庭・地域とそのビジョンを共有し、保護者・地域住民の方の願いを反映した教育活動が展開されたか。	A	・学校だよりや各種の集まり、メール等によってお知らせした。保護者からの評価も高いので、今後も継続していきたい。	A	A	目標やビジョンを共有しながら重点化を図り、無理なく保護者・地域と連携・協働を推進してほしい。
	・コミュニティ・スクールの取組を行い、家庭・地域と一体となった学校経営を推進できたか。	B	・コロナ禍で予定通りの活動ができなかったが、今後は、一緒に児童の指導を行う場面を増やしたい。	A	A	

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。